

# ①港北ふるさとサポーター事業（愛称“ふるさぽ”）はこうしてできた

續橋 宏昭  
港北区区政推進課企画調整係

「このまちに住んで良かった」、「このまちにずっと住み続けたい」と思える。ふるさと“港北づくりのために、地域の課題解決や魅力作りを行う活動グループからの提案に対し、補助金をだすことなどによって、事業をサポートする仕組みを「港北ふるさとサポーター事業（表1～3）」という。この事業をつくり上げたプロセスと地域の市民の方たちとのやりとりを記すことで、区役所と地域とのかかわり方を考える一助となれば、と思う。

## 1 いきさつ

### ① 気になったらアタック

全区の区政推進課に、平成16年度から、技術職が配属された。主な業務としては、「まちのルールづくり」と新規事業の企画や各局との連絡調整があった。どちらの業務についても現場を肌で感じる必要があった。

そこで、現地調査の際には、1/10000の白地図とカ

メラを片手に、現場周辺を歩き廻り、気になるものは全て写真を撮ることにした。すると、山羊の店植物園、企業博物館、防犯110番実行委員会が作成した危険箇所マップ、赤ちゃんからお年寄りまでの集いの場、パン屋さんのイートインコーナーにある情報掲示板など、大きいとはいえないが、地域の課題解決や魅力作りのために、頑張っている施設が各所にでてくる。

次には店に入り、身分を明かして話を伺う。最初に入ったのは、「夢うさぎ」。「2人の子供が小学生になったのを契機に、子育て中（10年間）に温めつづけていた夢を実現したギャラリー。古布による小物、七宝焼き、アクセサリーなどの販売品の多くは小学校仲間を通じて知り合った近所の方の手作り。閉店後は学習の場などとしても利用する。」など、小さなお店にも、地域のギャラリーとしての役割と素敵な物語があることを認識。この幸せな気分や、ときには地域作業所で作って

る味噌コロッケの匂いに惹かれ、次々、アタック。すると、素晴らしい物語が続々と紡ぎ出される。

「子どもが、みっちゃん」と尋ねてくる、子どもの本やさん、「地域に活かしてもらっているので、一番立地の良いところに、地域貢献施設としてコミュニティホールを設置した企業」、「築13年の二世帯住宅の1階部分を地域貢献として、ミニデイサービス施設に貸し出している方」、「介護予防としてお年寄りが気軽に行ける場所づくりを行いたいという思いから、3階にあるカラオケをお年よりの方に愛用してもらっている小料理屋さん」など。話した内容は集めるだけでなく、「宝物シート」と題したファイルにまとめ、係内の情報共有を図った。

また、話の中では、安心して地域や他の活動グループと交流できる機会と場所を求める声が多くでた。

一番の衝撃は、アポなしにも関わらず、自分の仕事をな

げうって、1時間以上も話をしてくれたいうえに他の活動場所まで案内してくれた方の言葉、「区役所の方がわざわざ、来てくれるなんて、ほとんどのないことだから。」この経験が、最大のきっかけとなって、地域で頑張っている方々と地域のために、何か区役所で行える方策はないかを考え始めた。

### ② イメージは膨らませよう

現地調査で見つけたような、施設や活動が、地域や他の活動グループと交流・連携を持つことによって、活動グループが複合的視野を得て、ポップコーンのように、大きく発展していくのではないかと。そのような魅力あふれる施設や活動が、街中に多くあればあるほど、暮らしやすい素敵な町になるのではないかと。

そうなれば、引越した後でも「港北区は良かったな」という思いを持ってもらえ、転入人口割合が高い港北区のイメージアップにもつながるのではないかと。と、将来像をどんどん膨らませます。

表1 公開会議の概要

名称	実施日	ねらい	参加者
イベント情報交換会「港北寄りあい処」	H17.3.26	補助事業のPR。活動グループの交流の場づくりをすると共に、活動プロフィールの共有化を図る。	様々な活動グループ及び一般参加者で70名
公開提案会「港北学び舎」	H17.6.25	公開で、活動企画を発表し、委員から質疑やアドバイスを受ける。	17の提案グループ、応援団及び一般参加者で103名
中間報告会	H17.11.23	交流・連携が図られた点や悩んでいる点について、赤裸々に発表し、参加者などからアドバイスもらう。	補助対象グループと応援団を中心に48名
活動報告・交流会「港北寄りあい処 第2幕」	H18.3.11	補助対象グループの活動報告と共に、参加者との交流を行う。	様々な活動グループ及び一般参加者で78名

③ ちよつとと考えてみる

区内に活動団体は多いが、横浜市中に名が通っているのは、数えるほど。多くは、工夫や苦勞を重ねながら、活動しているようなグループ。それならば、このグループの活動をサポートすることによって、区内各所で小さいながらも活動の芽を広げることが可能になるのではないかと。

また交流連携を積極的に誘導していくことよって、ノウハウの共有や相互の悩みごとの解決などが行え、活動グループそのもののレベルアップにもなるのではないかと。

「民と官との協働」は、ハードルが高いが、他のグループとの連携なら、ちよつと背伸びした感じできそうだし、「民と民の協働による公共性の高い活動」といえば、カッコいい。交流・連携を行うためには、エリアが限定しているほどやりやすいので、区には最適だし、交流・連携を補助金以上の魅力に育てることができれば、予算的にも望ましい。

地域の人たちは、慶應大学の敷地、部屋（図書室や会議室など）、機材、専門知識等の開放を望む声が大きい一方、慶應義塾大学でも、教養研究センターの交流・連携セ

クション創設に伴い、地域との交流の場づくりを模索しているぞ。お互いの方向性は一致するし、ネームヴァリュウムもつく。いいぞいいぞ。という感じで、小さな活動のパックアップ、補助金だけではない魅力作り、交流など5つのサポート機能（表4）、慶應義塾大学との連携（図）の3つの基本方針が固まった。

① 百聞は一見にしかず

文献などで調べた結果、事業手法としては、活動補助が有効と考えた。ともかく、千代田区の報告会を見に行ってみよう。見るとその雰囲気惹かれ、公開提案会と確信。次に、旭区や市民協働事業本部などの先進事例やNPO団体にもヒアリング。NPO団体からは、あるときは申請者として、あるときは審査員としての補助に関わっている多くの経験を元に、様々なアドバイスをしてもらった。「港北寄りあい処」も、その方のネーミング。

委員さんも、事業を面白いと感じてもらえ、作り上げていく熱意にあふれた方に引き受けてもらえてラッキー。

なんとか横浜市とは違う公開提案制度が構築できそうな感じ。わくわく。

⑤ プレイベントが大事

続いて、事業のPRと検証。折角の新事業だから、多くの応募がなければ、意味がない。また、活動の補助というのと、町内会・自治会は関係ないと思われがちなので、そのイメージを払拭したい。また交流・連携が活動グループにとって意味があるかどうか、ちよつと心配。それらのリトマス紙として、活動情報・交流会「港北寄りあい処」を、補助申請募集に先立ち、慶應義塾大学で実施した。

「港北寄りあい処」は、活動発表と交流の2本立てで実施した。活動発表は、自治会・町内会活動を含め、様々な場所・団体形態をとりながら活動を行っている、5名の方にお願いした。

参加者には、グループ活動を紹介するパネルやチラシの持込をお願いしたうえで、参加者には、参加者プロフィールを配布した。

その結果、11枚のパネルと20枚のチラシがあるなか、「まちで行われているお互いの活動を知る」ワークショップと、「縁（えにし）結びタイム」と名付けた、ポスターセッションを行った。知り合った人の数を競うという遊びも加えたことや、事前にワー

クシヨップを行ったこともあり、「縁結びタイム」では、45分という時間が、短いという感想もでるなか、積極的な交流が図られた。

ワークショップのまとめでは、「読みきかせグループが高齢者施設に行っても良いかどうかの判断ができなかったが、経験者の言葉をもらい、安心していける気になった」、「防火、防犯、防災の3つが個別に活動していても自分達の中で納まってしまいが、それらがつながっていくことよって、特技を生かし活動が広がっていく」、「自分から飛び込んでいくことは難しいので、出合いのきっかけが必要である」等の意見が寄せられ、「交流・連携」という事業の方向性が間違っていないことが分かり、一安心。

また参加者が楽しめる仕掛け作りのために、場を和やかにする、賑やかな感じを作り出す、飽きさせない工夫づくり等に気を使ったこともあり、「様々な人や活動の話ができて良かった」、「新たな横のつながりができそうだし」、「今までありそうでなかった交流会、楽しかった」などの好意的な声寄せられた。また、その良い雰囲気の後押しされたのか、参加者から補助

クシヨップを行ったこともあり、「縁結びタイム」では、45分という時間が、短いという感想もでるなか、積極的な交流が図られた。

表4 5つのサポート機能

	ねらい	実施方法
①芽ばえ・展開	区民の活動の芽生え・さらなる発展を促す。	・丁寧な事前相談の実施 ・低補助金コースの設置（最大5万円） ・スキルアップ講座等の開催
②ひろめる	団体やその活動を多くの人に知らせる。	・広報計画
③称える	客観的に評価し、価値ある活動を称える。	・ふるサボ大賞の実施 ・港北学び舎大賞の実施
④交える	区民や団体の交流・連携の機会をつくる。	・縁（えにし）結びタイムの実施 ・ポスターセッションの実施
⑤取り結ぶ	団体が望むものが、提供される仕組みをつくる。	・現在、検討中

表3 補助額及び補助対象グループに求められる要件

	補助額	評価要件
種まきコース	5万円	・斬新なアイデア
芽生えコース	50万円	・斬新なアイデア ・地域や他グループとの連携 ・他地区への展開方法 ・自主財源を増やす努力

表2 具体的目標

①ちよつとした工夫で地域の身近な課題解決や魅力作りを行う
②活動グループが、まちの中の様々な主体とつながりを持ち、地域に根付いた活動が芽生え、育ち、継続していく
③他地区の事例を知ることや、他団体のアドバイスを受けることによって、類似の課題や悩みの解決につなげる

申請が7件も応募された。

## 2—ちょっとした工夫

### ① 情報はどんどん流そう

以前、NPO法人に、行政に望むものを聞いたところ、「お金はいつか支出できなくなるもの、その時に、今までの感謝の気持ちより、切られた恨みばかりが残るので良くない。そんなお金よりも行政の信頼をバックにした宣伝をしてほしい。行政がPRすれば、通常は興味を持たない人も、来てくれる。一度、来てくれれば自分達の方で引き込むことができる。」と言われたこともあり、情報の流し方について気を使った。

区政推進課という立場を生かして、「広報よこはま」に特集を組んでもらうのはもちろんのこと、「タウンニュース」の発行責任者に委員さんになつてもらった。「タウンニュース」は、公開会議以外にも、グループの活動に対して積極的に紹介をしていただくなど、大変な協力をしてもらった。ふるサポに応募してよかった点として、「タウンニュースに掲載された」という意見が多くあることから、このねらいはあたっていた。さらに、新たな発見も。

「港北寄りあい処」開催の折、活動発表者を通じて、他に活動をしている方を紹介してもらったり、メールで開催案内を流してもらった。これらの方々の多くが「港北寄りあい処」に参加してくれた。このことから信頼をベースにした「クチコミ情報」が情報伝達手段として、とても重要なことが分かった（これも事業に活かそう）。

一方、区役所内部でも、3つの公開会議の案内を出すだけでなく、他の係会議に出かけ「ふるサポ」の説明等を行った。その甲斐あり、区役所の中でも「ふるサポ」の認知度が高まり、他課からのグループ紹介やグループ活動への連携方法に関する提案が寄せられるようになった。

### ② 後援名義は大きな力に

「港北寄りあい処」で「団体同士や地域と団体がつながっていく過程では、行政にワンクッション入ってもらいたい」という意見をヒントに、チラシやポスターに、区の後援名義を入れてもらった。広報活動に役立つという直接的な効果もあるが、「区の後援名義があると、地域に入っていくやすい」などのより大きな効果あがっているこ

とが、そののち団体からの意見で分かった。

### ③ あだ名が付くなんて

初年度に、17(表5)もの応募、それも活動の初心者者が6組もあった理由は、「港北寄りあい処」でのPRに加え、補助申請提出時に、丁寧な事前相談を行ったからと思う。

事前相談を行ううちに、活動グループは、自分の気持ちばかりが先立ち、事業計画と審査基準をうまく結びつける書き方ができない方が多いという感想を持った。事前相談は、制度の趣旨に沿った、書き方にしてもらうために、1時間以上話し合いを行ったり、何度も事前相談を行ったグループもあった。その場で感情を吐露されたり、次々と相談者が訪れ、声が出なくなるなど、事務局にとっても負担は軽いものではなかったが、逆に活動グループとの信頼関係の構築に、大きな役割を持った。なお、事務局として、提案者の夢を聞き出し、土俵に乗せてあげようという気持ちが必要であることは言うまでもない。

また、活動グループから「ツッキー」という「あだ名」がついた事は、特に嬉しい出来事だった。

## 3—今後の展開

### ① 事業は続くよ

将来的には補助金が0円でも「ふるサポ」に申し込むと良いといわれるような制度を目指している。そのための手段として、次のようなことを検討している。①グループへの無料スキルアップ講座(申請書類の書き方、プレゼンテーション手法、ホームページの作り方など)を開催する。②「港北寄りあい処」が、企業・町内会・個人・他のグループなどから、空き部屋・土地・資機材などの資産やノウハウ、マンパワーなどが提供される場となる。

さらに、平成20年に開塾150年を迎える慶應義塾大学との更なる連携を図る為の手段として、①大学主催の地域向けのイベント及び地域の情報を、相互に流通させる。②ボランティア授業を受講している学生が、活動体験者となり、区のHPに活動グループ紹介の記事を書く。

そして最後に、活動グループが行政に一番求めている「総合性を持った職員」を、この事業を通じて養成する仕組みができる。まだまだ、やることがあるぞ！

表5 活動グループの分類

	NPO	任意団体	大学生・学校	個人	その他	計
交流		2	2	2	商店	7
福祉	2				授産施設	3
防犯・美化			1		事務所協会	2
青少年・教育	1	1				2
文化・歴史		2				2
計	3	5	3	2	3	16

1件辞退

図 推進体制

